



とうきょうすくわくプログラム活動レポート

「水族館での自然体験」(2歳児)

しおどめ保育園京急蒲田駅前では、東京都の「とうきょうすくわくプログラム」を通して、子どもたちが身近な環境にふれながら、感じ、考え、試してみる体験を大切にした活動を続けています。

第3回となる今回は、これまで園内や散歩で触れてきた自然体験をさらに広げ、水族館での自然観察をテーマに活動を行いました。

海や川の生き物に直接出会うことで、子どもたちは新たな発見や驚きを感じる機会となりました。



活動のための工夫と環境づくり

より多様な自然に触れる機会として、今回の活動では水族館への園外保育を実施しました。

- ・水族館での自然観察の機会を設定
- ・バスを利用した移動手段の確保

日常とは異なる環境に安全に移動しながら、子どもたちが安心して体験に集中できるよう配慮しました。

活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

- ・日々の戸外活動や自然物への関心が高まる中で、子どもたちから魚やタコなどの水中生物への興味が見られるようになった。
- ・水族館見学では、水中生物への興味を持ちながらを水槽の中を見る姿が見られた。
- ・魚の水槽の前では「大きいね」「泳いでるね」といった声が上がり、動きや大きさに注目する様子があった。
- ・様々な魚を見ている中で「これはいわしっていう名前の魚だよ」など、魚にもいろいろな種類や名前があることを知らせると、「これは？」と魚の名前に興味を示し、保育者に名前を聞く姿が見られた。
- ・また、タコを見ると、事前に絵本等で見ていたイメージとの違いに気が付き、驚いた表情を見せる姿が見られた。保育者が「絵本で見たタコと何が違う？」と問いかけると、じっと観察しようとする姿や「赤じゃない」と話す姿が見られた。



- ・海藻を見て「葉っぱ」、サンゴ礁をみて「大きい石」と表現する子どもに対し「海の中にあるものは海藻って言うんだよ」「これはサンゴ礁って言うんだよ」と伝えると「これも海藻？」と聞いたり「海藻、海藻」「サンゴ」と繰り返し言葉にしたりする姿が見られた。

振り返りによって得た先生の気づき

- ・水族館見学を通して、子どもたちは実際の生き物を目の前にすることで、絵本や図鑑で得た知識との違いに気が付き、より観察しようとする姿が見られた。特にタコの姿に驚きを示す様子から、実体験が子どもの認識を広げるうえで重要であることを改めて感じた。

また、海藻を「葉っぱ」サンゴ礁を「大きな石」と表現する姿から、自分の知っている知識と結び付けて理解しようとしていることがうかがえた。その際に適切な言葉を伝えることで新たな語彙の獲得や、理解の深まりに繋がることを実感した。

- ・子どもの気付きや疑問に対し、保育者がタイミングよく言葉をかけることの大切さを再認識した。今後も子どもの興味関心を大切にしながら、実体験と言葉を結びつけた関わりを大切にしていきたい。